

将棋にはあまり詳しくありませんが、昔父親と伯父が指しているときに自分だけが気がついたと思い込んで、「お父さん、王様の頭に歩を張れば詰みだよ」と耳打ちしたところ、「それは禁じ手だ」と笑われたことがあります。手持ちの歩を張って詰みとするのは「打ち歩詰め」という禁じ手であると聞かされました。理論的には可能でも指手双方のためにやめておいたほうが良いと長い歴史のなかで先人達の理性で決めたルールです。何が言いたいのかというと、mRNA ワクチンと聞いて私が連想したのが「禁じ手」という言葉だったということです。

今月号の特集は「子どもと新型コロナウイルス感染症」です。幸い小児では患者数も少なく、罹っても軽症で済むことが多いため、われわれ小児科医がパニックに陥るようなことはありませんでした。しかし、未来に起こる次のパンデミックも小児は大丈夫という保証はありません。今、小児の新型コロナウイルス感染症についても一度見直しておく意味は大きいと思います。実際の診療、診療体制、米国の実情、わが国でのレジストリ、感染対策、川崎病との関連、心のケア、学校生活、付随する虐待の問題など、小児の新型コロナウイルス感染症を多彩な視点からそれぞれの専門家に詳述していただいています。

「綜説」では、2020年に改定された川崎病急性期

治療のガイドラインについて実臨床に即して解説していただいています。新型コロナに伴う川崎病類似病態についても「特集」のほうと合わせてお読みください。「診療」では、コロナ禍で医療関係者のみならず社会的に広く行われるようになった手指衛生とそれに伴う手荒れ（手湿疹）について皮膚科学的に詳しく解説していただいています。「社会小児科学」は、子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の10年間にわたる総括と見えてきた問題点について、児童虐待防止委員会（CAPS）の活動の実例についての2篇です。どちらも社会のなかの子どもたちについて考えさせられる内容ですので、是非ご一読ください。

ワクチン接種が進み、コロナ禍もいよいよ克服の方向にあることは喜ばしいことです。ただ、「禁じ手」に手を染めてしまったことは頭に入れておくべきだと思います。生命の仕組みがすべて解明されたわけではありません。逆転写酵素が働いて、DNAが残るという可能性ひとつをとってみても、もっと議論を深めてからの導入が望ましかったと思います。これだけの世界的災厄ですから、緊急導入やむなしとは思いますが、でも悲惨な戦争を終わらせるためとして、わが国に「禁じ手」が使われたのも歴史的事実ですから。

（伊藤 保彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第62巻 第7号 7月号

2021年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]

Tel 03(3811)7184 [営業部直通]

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。